

災害・健康危機管理におけるフィールド研究

著者

Lucy Fagan 英国公衆衛生庁（ロンドン、英国）

Katie Carmichael 英国公衆衛生庁 国内公衆衛生迅速支援チーム、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院（ロンドン、英国）

Virginia Murray 英国公衆衛生庁（ロンドン、英国）

7.5.1 学習目的

フィールドにおける災害・健康危機管理研究に関する、以下の点について理解できるようになる。

1. フィールドにて研究を実施する前の主要な準備
2. フィールド研究およびデータ収集の実施に伴うロジスティクス
3. フィールドへの派遣を成功させるために必要な主要項目

7.5.2 序論

災害・健康危機管理の研究ではフィールドワークが必須である。本書ですでに述べているように、災害・健康危機管理における既存の戦略およびプロセスを強化するためには、健康危機や災害の発生中にリアルタイムで研究を実施して、対応に有益な情報を提供し、エビデンス基盤を構築し、役に立つ教訓を特定することが必要になる場合がある。

実施している研究の整合性を維持するには、研究プロセスの全段階を通じた綿密な計画とリスク評価が不可欠となる。フィールド研究を実施する計画をする際には十分な準備により不測の事態に備え、自立した研究を続けられるようにし、研究プロセスが受け入れ先機関に負担をかけないようにすることが重要になる。時には数週間または数ヶ月といった一定期間のフィールド活動が必要になることも認識する必要がある。個人の身の安全に関する研修、ワクチン接種、現地の治安、異文化適応能力を含む、個人の安全についても考慮しなくてはならない。研究者には、めまぐるしく変わっていく環境に備え、変化や不確実性に対応できる柔軟性を身につけることも求められる。本章では、災害・健康危機管理における研究実施を計画する際の実用的な考慮事項について説明する。

7.5.3 準備段階

準備段階は、災害・健康危機管理のフィールド研究が有効で、安全かつ、文脈上適切であることを確保するうえで鍵となる。いくつかの重点項目では、入念な計画が必要である（表 7.6.1）。準備段階のどこかに不備があれば、研究が遅れて実施期間やフィールドでの所要時間が延びることになり、データ品質にとってリスクとなる可能性もある。

表 7.5.1 フィールド研究の準備段階における主な検討事項

研究およびフィールドワークに関する倫理審査による承認および政府の承認
招へい状およびビザを含む渡航に関する留意事項
文脈の分析
<ul style="list-style-type: none"> - 現地で入手できるリソース - 異文化対応能力 - 社会政治的環境 - 危機の規模 - リスク評価
現地の指揮命令系統の特定とコミュニケーション
現場訪問およびパイロット探索研究の計画
各種機器とプロトコル
<ul style="list-style-type: none"> - 物理的機器の準備 - 必要に応じて、機器の使用および取り扱いに関する研修 - データ収集に関する明確なプロトコル - データと機器の安全性に関するプロトコル
データと検体の採取（必要に応じて）
<ul style="list-style-type: none"> - 人的および物理的リソース - 検体の取り扱いと輸送

7.5.4 関係性構築とチームビルディング

研究の重要側面ごとにリーダーを特定すべきである。早いうちにチームメンバーの具体的な役割および責任を明らかにすることで、研究が進むにつれて生じる可能性のある混乱を最小限に抑えることができる。研究を指揮する者は通常、主任研究者 (principal investigator, PI) と呼ばれる。研究チームメンバーの役割および責任の内容は、主任研究者が委任したものでなくてはならない。安全と治安、データ品質および収集、最終的な研究結果の公開を含むフィールドワークのどの部分も現地でのつながりおよびネットワークがなくては実現できない（7.7 章を参照）。こうしたつながりやネットワークは、国連の各国事務所 (UN country offices) などの国内機関 (in-country agencies)、保健省 (Ministry of Health) などの政府機関 (government agencies)、または現地の NGO など、パートナーの仲介により構築されることが多い。重要な専門知識を持つ現地の専門家およびステークホルダーを早くから特定し、こうした人々を研究チームに加えなくてはならない。

7.5

研究者は協力してチーム体制を特定し合意しなくてはならない、特に国際メンバーと現地メンバーが関与する場合には必要である。災害・健康危機管理研究では、研究チーム内のメンバーのバランスはさまざまである(1)。例として、フィールド研究グループが緊急医療チームに付随している場合は、緊急医療チームが自分で許可して研究チームを支援することもできるし、研究チームが独自に作業する場合は、フィールドでの活動には特別な許可が必要になる。研究関連のフィールドワークでは複数回の渡航が必要になる場合が多く、出発前に毎回、入念に計画しなくてはならない。政治的および社会的緊張の可能性を含む訪問先の環境の文脈を把握し、研究チームの存在がその文脈の中でどのように受けとられるかを見極めることが重要である。

7.5.5 フィールドワークの開始前

フィールドワーク開始前に、通常は政府や危機管理センターからの招聘によって研究の正式委任を受けなくてはならない。現場で収集するデータは機微なものが多いため、多くの研究は統治機関(または大学を関与させる研究に分類される。そのため通常は、そうした機関または大学を介して追加で現地の倫理審査の承認も取得しなくてはならない(7.4章を参照)。研究提案の修正も含め、倫理審査による承認または政府の承認取得について最優先(理想的には到着前)に検討すべきである(2)。緊急事態では承認の免除または迅速審査が認められることが多いが、その場合でも数日から数週間を要することがある。承認が必要かどうか適切なタイミングで検討しなければ、フィールドワークに遅れがでるかもしれない。できるだけ早く現地のネットワークと接触し、コミュニティに関与して、到着前に研究の意図を伝えることがフィールドワークにとって有益である。さらに、データ収集および解析、機器の使用および取り扱い、コミュニケーションおよびフィードバックループなど、フィールドワークのあらゆる点についてプロトコルを作成することも重要であり、派遣前に、理想的には緊急事態が発生する前に準備しておくべきである。現地に到着すれば細かな事情は変わってくるものだが、到着前に最低限しか計画しないことよりは、最初から必要に応じて調整できる計画があるほうが望ましい。有名な対応機関は標準操作手順(standard operating procedures, SOP、用語集参照)を用意していることが多いため、新たな手順書作成について検討する前に、関連機関から入手可能なガイドラインを見直しておくことが不可欠になる。

研究では一貫したデータ品質および収集の確保に特化したプロトコルが不可欠であるが、不安定な環境であればそれはなおさらである。例として、検査室のサンプル収集および検査プロセスはSOPとして適切に文書化されていることが多い。どの検査室に検査実施・継続能力、どこにあるのか、検体提出の条件は何か、SOP更新の責任者は誰かを把握することが重要である。その他の研究のあらゆる関連事項に関しては、主任研究者が確認および承認したSOPを使用しなくてはならない。研究チームのメンバーは全員、SOPに関する研修を受け、修了認定証を取得する必要がある。体系的なアプローチを用いることが極めて重要となる。

7.5.6 ロジスティクスとリスク評価

早い段階で現地のロジスティクスを確立し、到着後にスタッフの収集、移動手段、宿泊施設の手配を含んでいるかどうかが重要になる。現地で利用できるリソース（インターネット、電気、水、医療）についての情報も探さなくてはならない。災害そのものの規模のほか、文化や社会政治的環境も把握する必要がある。そうすれば、こうした条件に対する最適な準備方法を検討し、確固たるリスク評価を実施することができる。準備作業においてはリスクアセスメントが重要であり、フィールドワークに伴って生じる可能性のあるあらゆる脅威および脆弱性を細かく明らかにしなくてはならない。いずれも省庁の勧告、国連の状況報告、現地パートナーおよび主な橋渡し役との相談など、信頼できる情報に基づいて判断すべきである。潜在的なリスクが特定できたら、フィールドワーク実施前、実施中、実施後にとるべきリスク低減・軽減策を決定する。こうした情報は、最初のフィールドワーク提案およびパイロットスタディの策定、および最初の現地訪問でのロジスティクス計画において役立つ。

7.5.7 各種機器および用具

現地派遣にあたっては、必要なソフトウェアを搭載し、ローカルドライブにデータをバックアップしたパソコンなどの機器を準備しておかなくてはならない。すべての電化製品について現地の電圧と互換性があるか、対応できるかを確認し、製品のショートや取り返しのつかない被害が生じないようにする。現地でスムーズに自信をもって確実に作業するためには各種機器および技術的設備の使用に関する研修が不可欠であり、緊急事態発生前から定期的実施して準備しておかなくてはならない。

検体収集 (specimen collection) について計画とプロトコルを作成することも重要である。これには、検体（血液、尿、便など）の収集および保管に使用するキットおよび包材（必要な容器および運搬用媒体）が含まれる場合がある。栄養調査 (nutritional surveys) や環境疫学調査 (environmental epidemiology studies) では、ノギス、定規・巻尺、ピークフローメーターなどの測定器も必要だろう。冷凍・冷蔵のまま現地に届けるなどの運搬体系 (cold chain) が必要な場合には、到着前にロジスティクスについて調査して計画しておかなくてはならない。医療機器または実験用具 (laboratory supplies) の運搬では、適切なセキュリティクリアランス（訳注：輸出入安全保障などの適格審査）文書の取得が必要な場合もある。

研究デザインおよび研究提案ではデータのセキュリティを重点的に取り上げなくてはならない。所属組織または受け入れ先組織から研究許可を取得する際に、確固たるリスク評価およびリスク軽減策の策定が条件とされる傾向が強くなっている。研究を実施するあらゆる環境においてデータのセキュリティは極めて重要である。発展途上国の場合においても、高所得国の場合と同様のデータ保護基準を適用するために規制およびガイドラインが定められていることが多い。緊急事態であっても、機微な情報の公開が、関係するコミュニティに、より大きな害をもたらすことがあるため（例：HIV/AIDS などの性感染症への偏見が強くなるなど）、平時のデータセキュリティ策を緩めるべきではない。電子データについては、データベースおよびデータベースを保存するデバイス（ノートパソコンなど）の物理的セキュリティ、安全なサーバー、およびスタッフの権限を含むデータアクセスのプロトコルを用意しておくことが重要である。紙ベースのデータを用いる場合には電子データと同様の手順を採用し、さらに金庫を使用するなど物理的なセキュリティを強化することが重要になる。

7.5

7.5.8 海外の研究者に関する特別な考慮事項

国際研究に関連するフィールドワークでは複数回の派遣が必要になる場合が多く、出発前に毎回入念に計画しなくてはならない。文化的規範、および政治的・社会的緊張が生じる可能性を含む、作業実施環境の文脈を把握し、その文脈の中で研究チームの海外スタッフの存在がどのように受けとられるかを見極めることが重要である。フィールド研究の実施を計画する前に、チームの各メンバーが派遣に適した健康状態であるか、安全に渡航できるかどうかを明らかにすることも必要になる。

研究者は派遣前に、組織のガイダンスなどセキュリティ面の考慮事項をよく理解しなくてはならない。関連するセキュリティ研修（BSAFE および SSAFE のような国連のオンラインコースなど）に加え、医療支援が受けにくいことも考えられるため、基本的な応急処置に関する研修も有益である。その他にも派遣研修、心理的応急処置 (psychological first aid, PFA、用語集参照)、データ管理、安全保護などに関する研修が役に立つかもしれない⁽³⁾。派遣隊に新しいスタッフが参加する時には、居住シミュレーション演習を実施している組織もある。

最後に、現地に持っていくと役立つような私物（表 7.5.2）と機器類（表 7.5.3）を決める必要がある。

表 7.5.2 フィールド研究に持参することを考慮すべき私物

考慮すべき私物は、国内または国際的移動に必要なかどうか、環境、気候、行き先によって異なる。以下を検討すべきである。

渡航関連書類（パスポート、招聘状、ビザ、保険証や保証範囲の案内、ワクチン接種記録）、これらのコピーや電子コピー（海外への移動が必要な場合は必須）

携帯電話、充電器、現地で使える SIM カード（加入者識別モジュール）、外付けのバッテリーパック

パソコンと充電器

電源アダプターや変圧器、延長コード

ヘッドランプ

現金（現地通貨と米ドル）とセキュリティポーチ（現金を入れられるベルトなど）

医薬品（必要な常備薬と処方箋、予備の処方薬、マラリア流行地域であれば抗マラリア薬、予備の医薬品）

在庫の十分な応急処置キット（最低でも絆創膏、包帯、手袋、テープ、洗浄シート、クリーム、はさみやピンセット、市販薬、蒸留水）

洗面用具、蚊帳と虫除け、日焼け止め

現地の気候および文化に適切な衣服と履き物

緊急連絡先リスト（個人的な連絡先と現地の連絡先）。少なくとも 1 つは覚えておく

表 7.5.3 フィールド研究で必要になることが多い機器およびリソース

パソコン、タブレット、関連するソフトウェア
インターネット接続機器（ルーター、モバイルホットスポットなど）
携帯電話、充電器、現地で使える SIM カード
カメラ（充電器とスペアの記録媒体を含む）
電源アダプターや変圧器、延長コード
プリンターやコピー機
コード付き電話機やファックス付き電話機
データ保存の選択肢：USB 記憶装置、CD、クラウドストレージ、鍵のかかる金庫やファイルキャビネット
計算機
文房具：ノート、紙、ペンや鉛筆、ホッチキス、穴開けパンチ、バインダー、クリップボードなど
電話番号リスト：リファレンスセンター、当局および専門家の連絡先を含む
ファイルテンプレート
標準的な質問票
同意書：個人レベルのデータ収集、写真撮影などのため
標準操作手順書、ハンドブック、関連文献、その他の参考文献資料
地図、全地球測位システム
実験用機器
サンプル容器およびサンプル採取用機器
サンプル保管用機器（保冷容器など）

7.5.9 フィールドでの安全と治安

安全と治安は何よりも重要である。出発前、到着時、および到着後も継続的に安全と治安について考慮しなくてはならない。安全確保の取り組みは複雑であるため、安全管理者を確保することが有益だろう。安全管理者はチーム全員の安全を確保し、頻繁に状況評価を実施し、懸念が生じたらチームメンバーに注意喚起を促すことに責任をもつ。

宿泊施設に到着したら、建物および敷地の安全を確認する。渡航中は一般的にゲート、警備員、鍵が付いた開閉できるドアなど安全対策を確認することが推奨される。

個人的な貴重品は、理想的には鍵の付いたキャビネットや金庫などで安全に保管し、盗難に備えて複数の場所（バッグ、ベッドの下など）に分けて保管する。高層階にいくほど侵入リスクが低くなる可能性があるため、2階以上の部屋を探し、睡眠中の安全を確保するためにドアチェーンや侵入防止バーの持参も検討する。電源（発電機を含む）および水など、敷地内で入手できるリソースについても確認しておくとう。

移動および作業は2人1組で行うことが得策であり、可能な限り実践しなくてはならない。特に交通事故が多発している地域を中心に、交通機関にもリスクがある。利用する車両が走行に不向きにみえる場合やシートベルトがない場合は、異なる移動手段を探す。作業場所への行き帰りが遅れるかもしれないが、大事なことは身の安全である。評判が良く信頼できる運転手を選ぶべきである。まだ決まっていない場合は、信頼できる現地のネットワークを介して信頼できる運転手または会社を見つけられるだろ

7.5

う。車で移動する際は、鍵が閉まるのであれば貴重品はトランクに保管する方が安全かもしれない。必ず誰かに行程表を預け、現地での行き先および帰りの予定時間を共有すること。

現場で、堅牢な情報技術・通信手段（衛星電話、無線通信、可能であれば現場でのテレビ会議機能）が完備された安全な事務所を確保できれば極めて有益である。専用の防護具および医薬品も必要かもしれない。海外から派遣される研究者については、現地の環境にまったく慣れていない現地滞在の序盤と、慣れてきて警戒が緩む終盤に事故が起きやすい。安全と治安に関するリスク評価は頻繁に実施し、文脈が大きく変わった、または事故やニアミスに遭遇した場合には必ず見直さなくてはならない。所属する組織の事故・ニアミス報告方針の順守を徹底し、適切な措置が講じられるようにする。現地の組織に治安状況を説明してもらい、あまり知られていない日常的リスクに関して情報提供してもらっても良いだろう。

7.5.10 関係管理

研究とは双方向のプロセスである。研究者と研究に関与するコミュニティの両方が研究プロセスから恩恵を受けるが、信頼なくして関係を維持することはできない(4)。基本的にこうした関係は、コミュニティに信頼性を示し研究の価値を伝えることで確立できるが、それには時間を要する。だからといって関係を築く前に急いで研究活動を進めれば、人々は研究者および研究作業に対して不審を抱き、誤った考えを持つようになる。重要なことは、コミュニティのメンバー、学識経験者、医療専門家、政府・非政府関係者などと幅広いつながりを構築することである。こうした人々との関係を通じて社会的、文化的、経済的、政治的な現地の動向を把握することができる。また、情報やデータの収集では幅広いパートナーの協力が必要となる可能性が高く、グループが多様であれば情報をクロスチェックできるため、データ収集プロセスそのものにとっても関係構築が重要である。

7.5.11 研究の実施

研究の実施にあたっては、倫理審査による承認および現地国内のプロトコルを見直し、そこで求められている方針を順守する（3.4 章および 7.4 章を参照）。現地の行動規範に違反した場合には研究に不利益となるだけでなく、法に触れ、現地の人々の感情を冒し、参加者に害を及ぼす事も考えられる。同意、データ収集、結果の共有に関する方針が不明瞭であれば、必ず倫理審査による承認の実施機関の代表者に確認しなくてはならない。個人レベルのデータ収集では基本的に同意が必要となる。言語や識字率が壁となり難しい場合もあるかもしれないが、インフォームドコンセントの取得は不可欠である。詳しくは 3.4 章および 7.4 章で考察している。

調整およびロジスティクス支援に関しては、事前に作業計画および合意された基準を確立しておかなくてはならない。専門的機器およびソフトウェアのほか、データ収集、研究、評価に関する基本的アプローチなどがこれに該当するかもしれない。各種機器および技術的設備の使用に関して、公式演習を含む事前研修は極めて重要であり、現地でのスムーズさ、自信、確実性につながる。また、現場でデータ収集のためにタブレットやカメラなどのテクノロジー製品を利用する場合には、人目をひく、目障りになるなど、コミュニティに受け入れられるものかどうかよく検討しなくてはならない。そうしたテクノロジー製品の利用では、インターネットへのアクセス性、電力や充電の制約、電子機器のセキュリティなど実務的な配慮も必要になる。

7.5.12 フィールド調査の研究プロセスとメカニズム

現地の調査チームは、合意書およびプロトコルを用いて責任を分担し、一切の作業を開始する前に、誰が調査を指揮するのかを明確にしなければならない。そうすることで調査チームが現地を離れる際に、担っていた役割をスムーズに現地チームに戻せるようになる。このアプローチにおいては、例としてデータ収集に関することや研究で得た成果のコミュニケーションに関することなど、調査活動のいくつかの面を分割しておくとも良いかもしれない。

最初の時点で報告のタイムラインについて協議して合意しておかなくてはならない。研究に関する最新情報を交換する会議では必ず議事録をとり、合意した措置およびその担当者を記載し、公表しなくてはならない。すべての決定事項、およびその時に入手していた情報など決定に至った背景も記録することが重要である。必要な報告および最新情報の提供スケジュールを明確にすることで、主要なフィールドワークの手配が可能になり、内外からの報告および概要説明に対するあらゆる要求にタイミング良く応えることができる。例として紙メディアまたは視覚メディアの公開スケジュールに合わせてプレスリリースは昼頃に実施することが得策であることが多い。現地メディアとのやり取りは現地の案件管理者と慎重に調整し、許可を得なくてはならない。研究に関する不完全な情報を公表したり、文脈的に不適切な形で公表したりすると問題が生じる場合がある。

7.5.13 研究の終了、または引き継ぎ

研究チームは、研究のさまざまな段階で加わる多様なパートナーやステークホルダーで構成されることが多い。実践前および実践中は通常、研究者が「総力を挙げて」連携する段階とみなされることが多く、フィールドでのデータ収集は現地のチームメンバーによる直接的な日々の指導の下で数か月から数年続くこともある。データ収集が進行中でもプロジェクトが完了段階にあっても、特定の手順に従うことでスムーズな移行に務めることができる。一般的にプロジェクトが完了し、研究者がフィールドから引き払う段階については十分余裕をもって計画すべきであり、研究チームの管理者と研究者との間で協議の上、合意しておかなくてはならない。

フィールドワークの終了時の検討事項には、データおよび機器の運搬、研究結果の共有、心理的デブリーフィングを含む個人のウェルビーイングなどがある。

7.5.14 データの保管と報告

データは安全に整理して保管し、データを継続的に見直す必要がある関係者のみがアクセスできるようにしなければならない（4.4章も参照）。優れた結果（検査結果や臨床結果）が引き出された場合には、安全性を確実に確保しながらパートナーに伝える方法（電子的な安全対策を用いるのが一般的）を計画すべきである。

7.5

7.5.15 公表

現地を離れる前には暫定報告書を作成して重要な研究結果をタイムリーに共有できるようにし、研究者 1 名を最終報告書の代表執筆者に任命しなくてはならない。フィールドワークの支援や承認に携わった現地機関および倫理審査委員会が、幅広く公表する前に研究結果の内部審査を要求する場合がある。内部審査には時間がかかるが、緊急の案件については迅速に実施されることが多い。適切であればすべてのステークホルダーと研究結果を共有すべきである。ステークホルダーには政府関係者や一般市民など科学者ではない人々が含まれることもある。そのような場合には、わかりやすい用語を用いる科学コミュニケーション戦略を採用することが重要になる。

7.5.16 健康とウェルビーイング

データ収集および研究に関与する人々は、現地で遭遇した問題と機会について話し合う意見交換の場を与えられなくてはならない。これは既存の方針やプロセスを見直すのに役立つ。スタッフの健康とウェルビーイングを支援するために休養および療養期間の設定について検討してもよいだろう。研究者が長期間にわたり不安定またはハイリスクな環境で作業している場合には、特にこうした期間が重要になる。

また、個人が健康上の要件について誰にも知られずに相談できる機会を設けなくてはならない。これには必要に応じたメンタルヘルスやウェルビーイングサービスへの紹介、カウンセリング、継続的な医療支援が含まれる。研究者が感染症を調査した場合、または感染症の近くで作業した場合には、国により規定されている健康モニタリングプロセスを通過しなくてはならない。

7.5.17 結論

フィールドワークの実施は重要であると同時に、特に災害や危機の文脈においては実施が容易ではないこともある。必ず現地から研究実施について権限を付与されていなくてはならない。準備力および優れた組織力は必須である。事前に用意した計画を柔軟に用いながら現地のステークホルダーと協力することが重要になる。特に不慣れた文脈で作業する場合には、現地機関からの支援を探さなくてはならない。科学論文で知見を共有する場合、謝辞でチームメンバー全員の取り組みについて言及すべきであり、そのためにも開始時点で倫理審査による承認の手続きをしておく必要がある。こうした知見を共有する報告書は、将来の実務を改善するうえで極めて重要である。報告書以外にも、現地の会議や記者会見など、関係したコミュニティに対して研究成果を公表する場合は、関係した人々に感謝の意を示し、研究の主な貢献者、場合によっては将来の貢献者、との関係を強化する重要な機会となる。

7.5.18 キーメッセージ

- フィールド研究が有効で、安全で、文脈上適切であるようにするうえでは準備が鍵となる。これには必要な行政および倫理審査の承認取得、計画書および標準操作手順書の作成のほか、機器、データセキュリティ、ロジスティクスの問題に関する慎重な計画が含まれる。
- フィールドでの治安と安全は何より重要であり、フィールドワークの実施前および実施中に考慮すべきである。安全と治安に関する研修コースが用意されている。

- 研究者とコミュニティの間で良好な関係を築くことが重要であり、コミュニティに信頼性を示し、研究の価値を伝えることで実現できる。
- 倫理審査の承認および国内の研究計画書を見直し、そこで求められている方針を順守すること。合意書およびプロトコルを用いることで役割と責任を明確にすることができる。SOPを順守すること。すべての決定事項および決定に至った背景を記録しなくてはならない。

7.5.19 関連文献

Hilhorst DJM, Hodgson L, Jansen BJ, Mena Fluhmann RA. Security guidelines for field research in complex, remote and hazardous places. 2016.

Liamputtong P. Researching the vulnerable: a guide to sensitive research methods. London, United Kingdom: SAGE Publications. 2007.

Ulin PR, Robinson ET, Tolley EE. Qualitative methods in public health: A field guide for applied research. San Francisco, CA: Jossey-Bass. 2005.

7.5.20 参考文献

1. Rodríguez H, Quarantelli EL, Dynes RR, editors. Handbook of disaster research. New York: Springer. 2007.
 2. Phillips BD. Qualitative disaster research. New York, NY: Oxford University Press. 2014.
 3. UK Public Health Rapid Support Team (UK-PHRST) personal communication and website: <https://www.gov.uk/government/collections/uk-public-health-rapid-support-team-uk-phrst> (accessed 4 March 2020).
 4. Black R. Ethical Codes in Humanitarian Emergencies: From Practice to Research? *Disasters*. 2003; 27 (2): 95-108.2. Gregg MB. *Field Epidemiology* (2nd edition). Oxford, UK: Oxford University Press. 2002.
-